

欧州馬術レポート

週刊 Gallop 2021 年 1 月号掲載



日本中央競馬会所属

◆佐々紫苑

(さっさ・しおん)

1995年東京都生まれ。早稲田大学卒。2012年全日本ジュニアライダー総合馬術選手権優勝。15、16年全日本ヤングライダー総合馬術選手権連覇。20年4月にJRA日本中央競馬会入会。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

馬心伝心 一奮闘記part II

佐々紫苑

Shion Sassa



レースを全速力で駆け抜ける競走馬は、出走時の負担重量に合わせて騎手の体重はもちろん、鞍など最小限の重さで、スピードに特化した馬装をします。一方、馬術競技馬の場合、左右への小さな回転やたくさんの障害飛越、ステップを踏んだり馬に多くの指示を出しながら走行するため、競走馬とは違った馬装が必要になります。

その中で今回お話しするのは「頭絡」という馬具です。頭絡は、馬の頭につける部分と口の中のハミと呼ばれる部分があり、乗り手はハミからのびる手綱と、自分の脚の力によって馬をコントロールしていきます。馬の口はとても繊細で、手綱を引くちょっとした力加減を敏感に感じ取ります。乗り手の中には、手綱から伝わる馬の様子をより感じるために、手袋をつけずに手綱を持つ人もいます。普通ハミは金属製ですが、唾液分泌を促すために馬が喜ぶような味のついた特殊な加工がされている物や、柔らかいゴムでできたハミもあり、形もそれぞれ自分の馬に合った物を選ぶよう、その形状は千差万別です。



左がハミのないハックモア、右がノーマルタイプの頭絡 (本人提供)

トップライダーの中には、「ハックモア」と呼ばれるハミのついていない頭絡を使う人もいます。馬の数だけ工夫された頭絡があるので、競技会の馬装に注目して観戦するのも楽しみ方の一つです。

Let's enjoy Dressage

高田茉莉亜

Maria Takada



アイリッシュアラン乗馬学校所属

◆高田茉莉亜

(たかだ・まりあ)

1994年東京都生まれ。慶應義塾大学卒。2010、11年に全日本ジュニアライダー馬場馬術選手権連覇。16年の全日本ヤングライダー馬場馬術選手権で史上初の4連覇を達成した。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

先日、コロナ禍でゴルフをはじめた人が増えたという記事を目にしました。ロックダウン中のドイツでも乗馬、馬術はソーシャルディスタンスを保ちながら行える個人スポーツとして活動を許可されています。

とはいえ、ドイツの乗馬人口は200万人とも言われているので、乗馬クラブに人が密集することも事実。その対策として、「馬場100平方メートルにつき一人馬が運動可能」というルールのもと、私たちは活動できています。また、飛沫による感染のリスクがあるため、トレーナーによる技術的な指導は許可されていませんが、安全の確保のための指導は許可されるといふかなりグレーなラインもあり、私の厩舎の先生は言葉遊びに四苦八苦しています… (笑)。

コロナ禍でスポーツの楽しみ方も大きく変わりました。乗馬は、人との距離を保つことができ、リモートワークの運動不足解消にもなれば、ダイエット効果もあり、馬と触れ合うことで気持ちも癒やされます。さらに馬の気持ちが分かれば、馬券も当てやすくなったりして…というのは冗談ですが (笑)、少しでも興味を持っていただければうれしいです！



馬も運動前にストレッチをするんです！ (本人提供)